

和洋女子大学
和洋女子短期大学
卒業生アンケート(概要)

総合研究機構

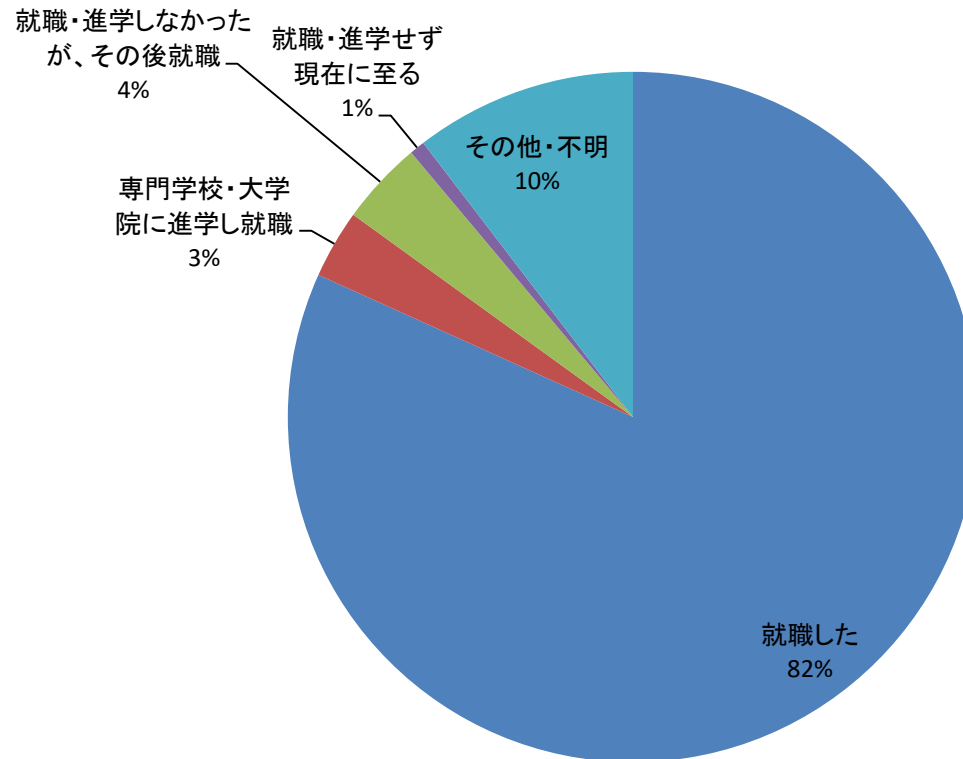
調査の概要

- 調査協力者（数字は卒業年を表す）

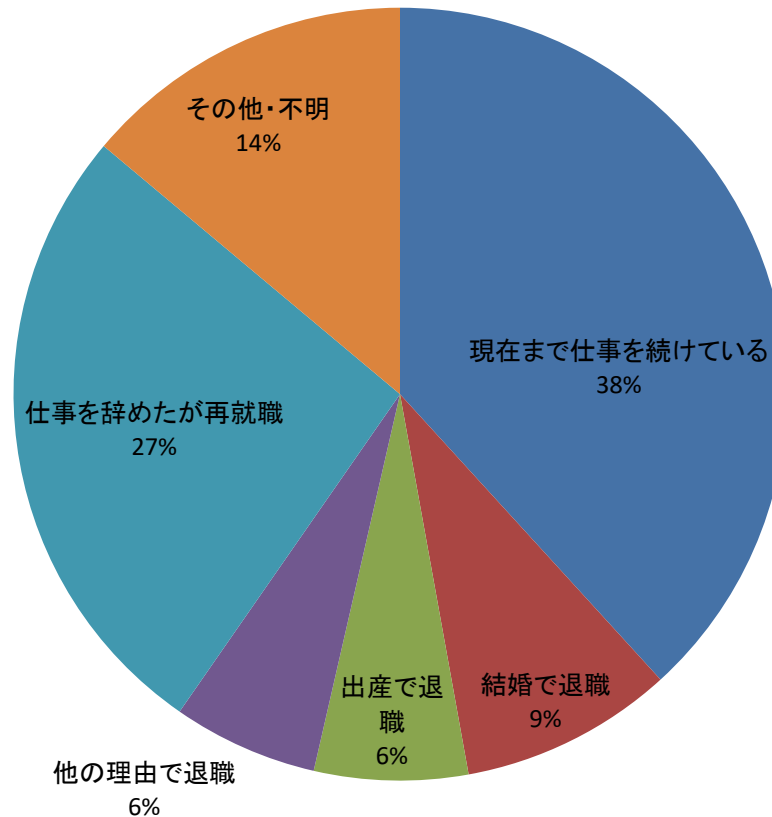
1990	778名
1991	727名
1995	530名
1996	480名
2000	374名
2001	475名
2005	255名
2006	359名
2010	445名
2011	457名
総計	4880名

- 調査時期2016年8月～9月
- 配布・回収方法：郵送
- 分析対象：280人分
- 回収率：5.7%

卒業後の進路(8割以上がすぐに就職)

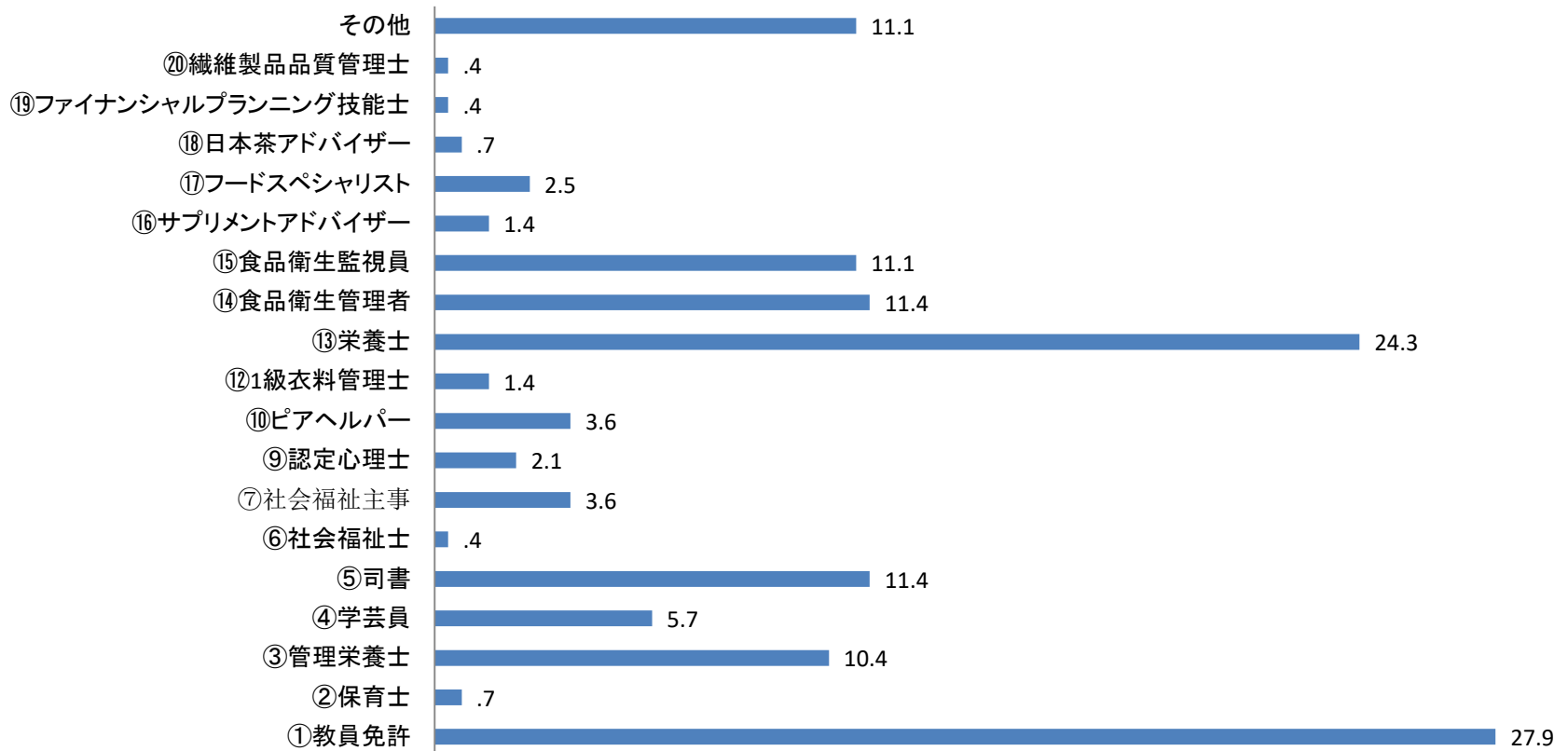


就職後どうしたか(4割近くが 現在まで仕事を続けている)

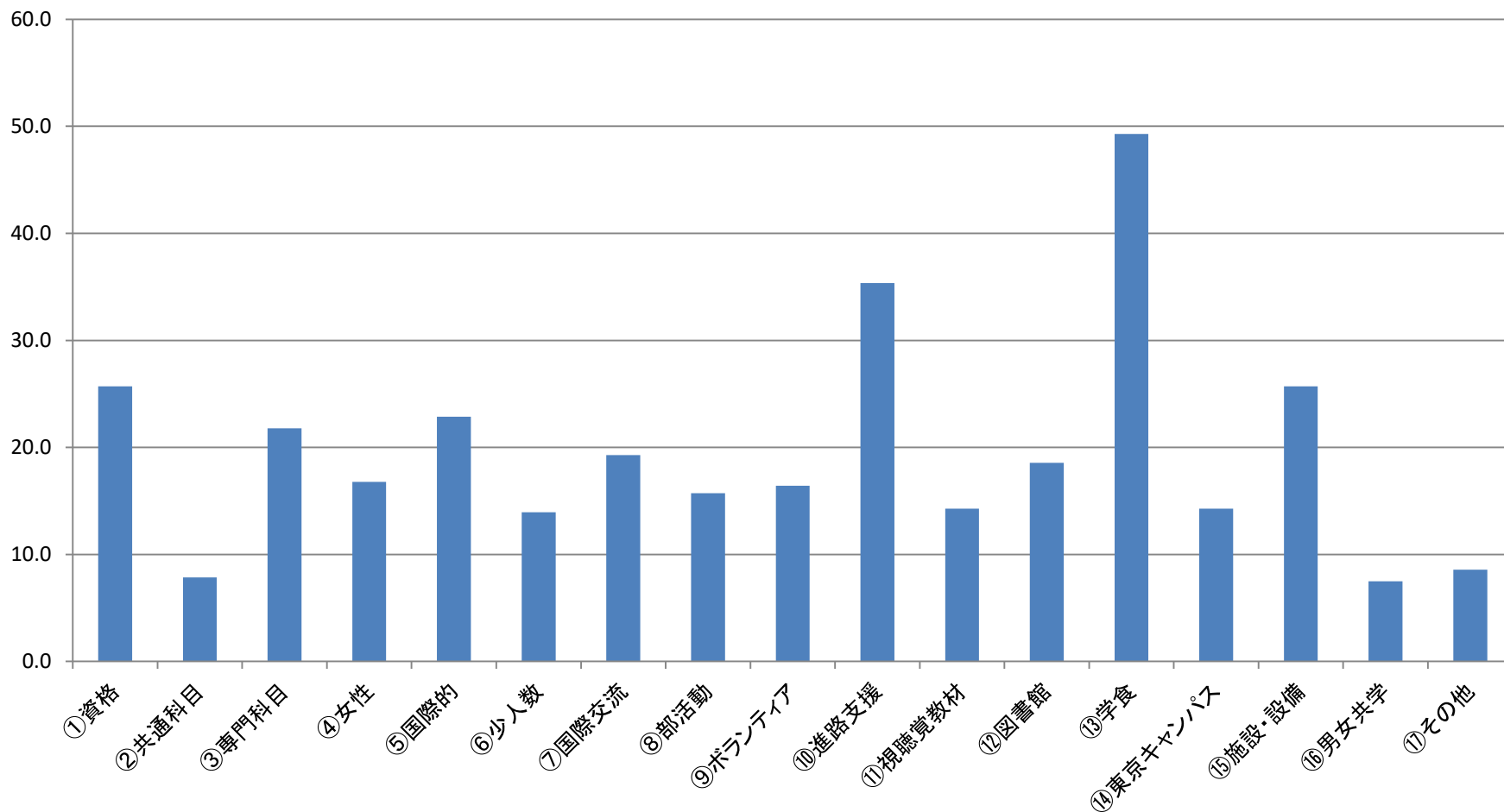


取得した資格・免許

大学で取得した資格(複数回答: %)

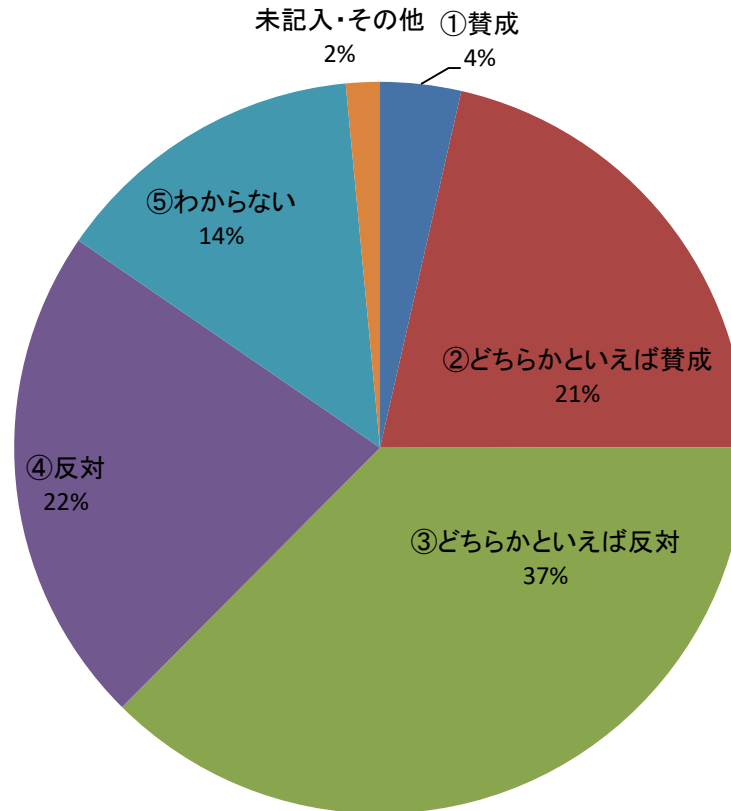


大学への要望(学生時代:複数回答;%)



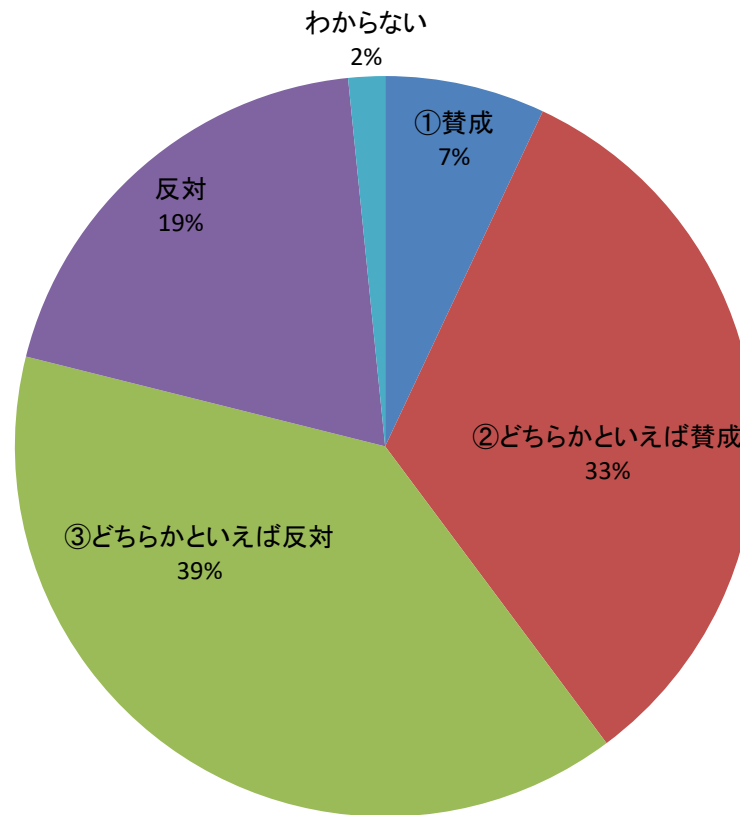
性別役割分業観

夫は外、妻は家庭という考え方

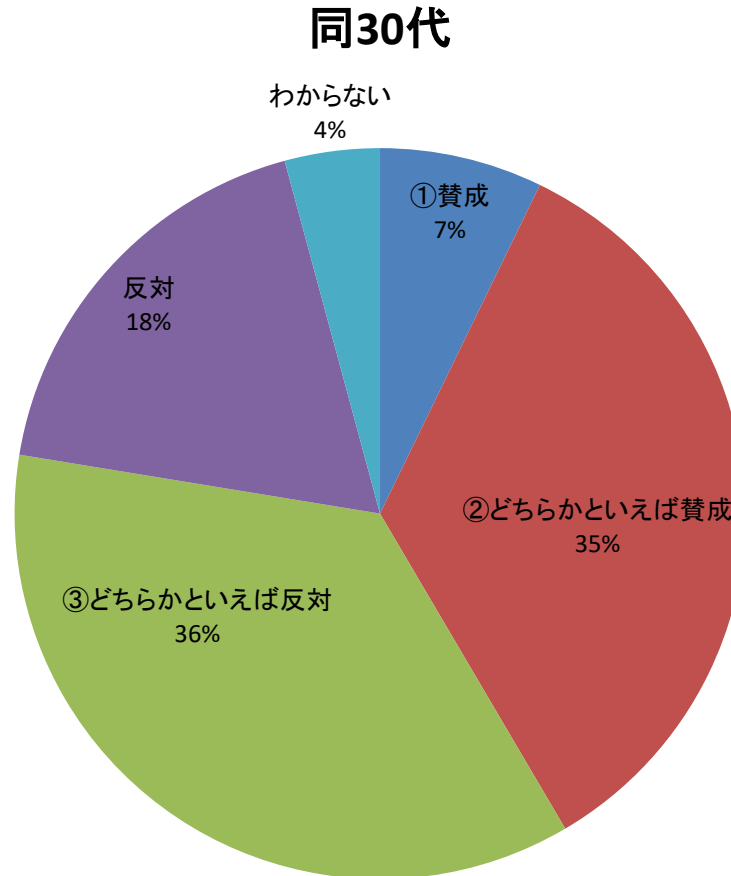


性別役割分業観(内閣府)

内閣府(平成26年度),20代

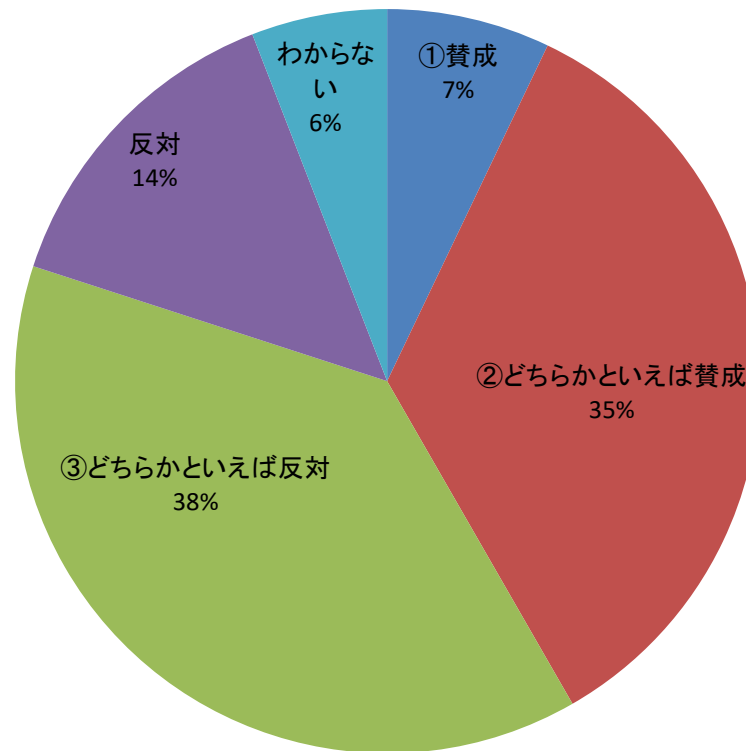


性別役割分業観（内閣府）

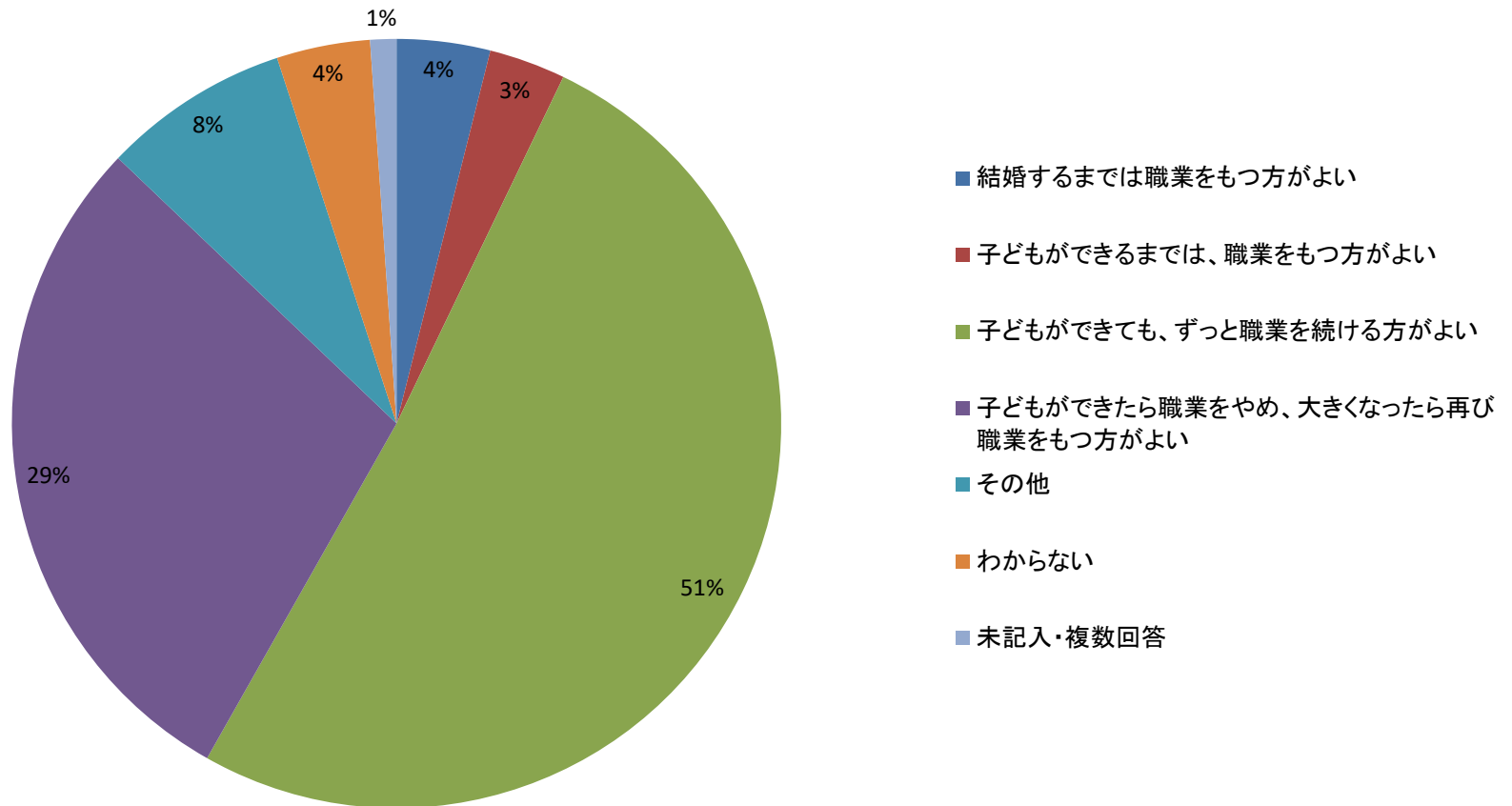


性別役割分業観（内閣府）

同40代



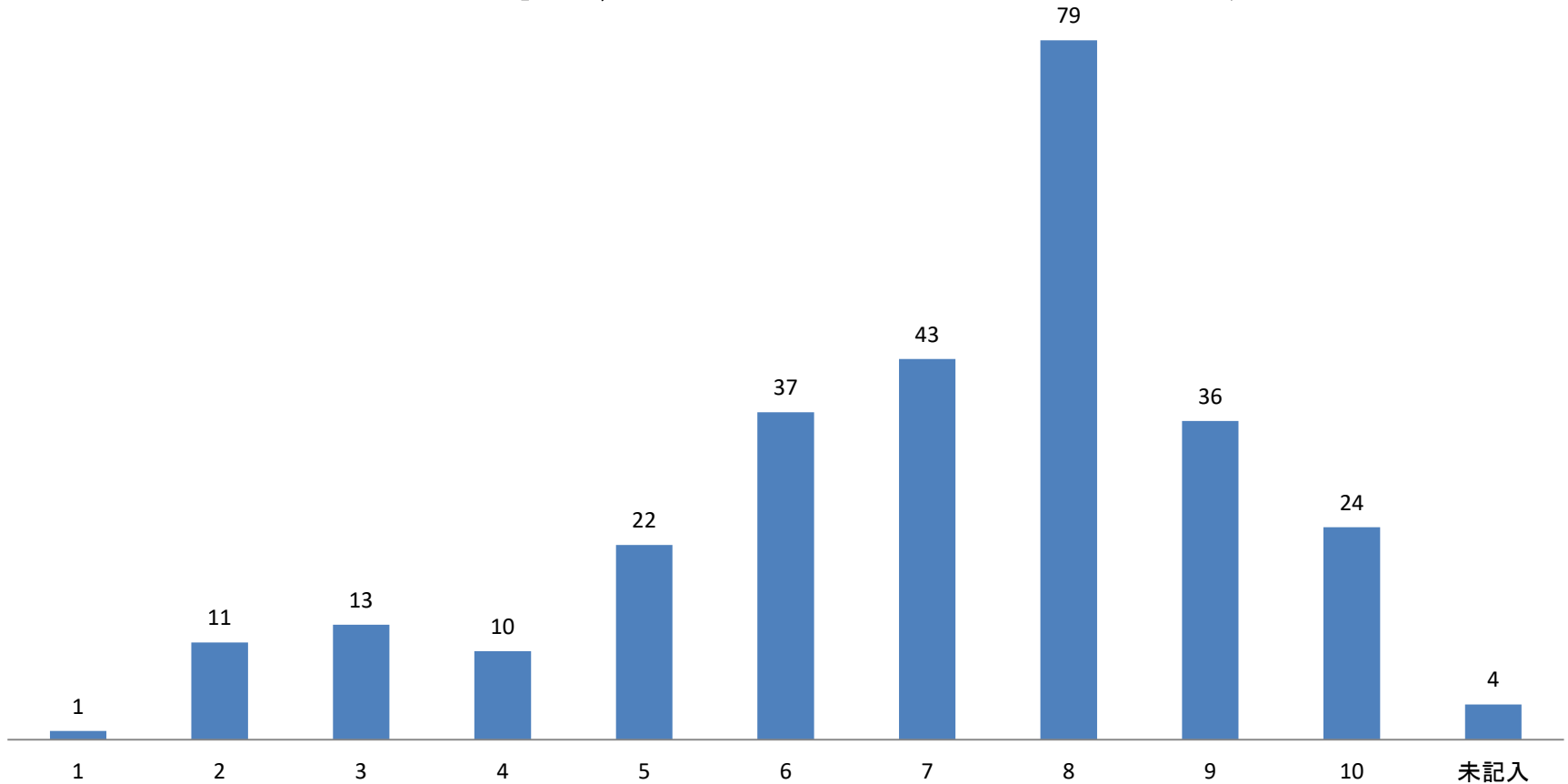
女性が職業を持つことについて



生活の満足度(棒グラフは人数)

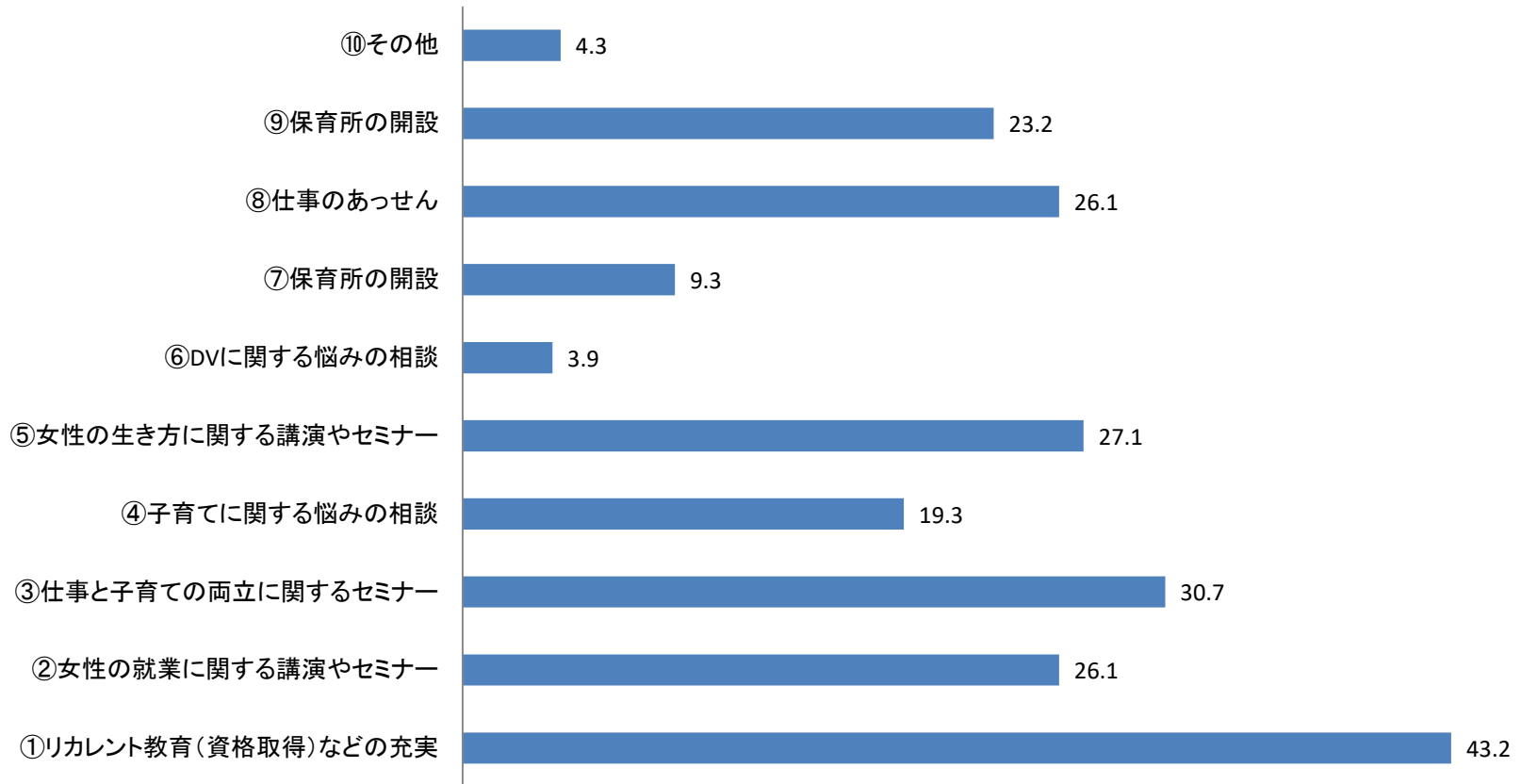
完全に満足している:10点

全く満足していない:0点



卒業生支援(要望)

必要だと思う卒業生支援(複数回答、%)



まとめ1

- 学生の多くが卒業後就職し、約4割が働き続けている一方、結婚・出産などによりさまざまなキャリアを呈している。
- 学生時代にとった資格・免許は、教員免許と栄養士・管理栄養士が多い。
- 学生時代の要望は、学食が最も多く、進路支援が次に来る。
- 和洋女子大学の卒業生は、同年代の女性に比べ、性別役割分業観にたいし否定的。

まとめ2

- 「女性が職業を持つことについては、子どもが出来ても、ずっと職業を持つ方がよい」が過半数を占め、和洋の卒業生の多くが、仕事と家事・育児の両立に肯定的である。
- 卒業した後の大学への要望は、リカレント教育への充実、仕事と子育ての両立に関するセミナー、女性の生き方に関する講演やセミナーと続いている。
- 生活満足度は8レベルの選択割合が多く、多くの卒業生が満足した生活を送っていることが察せられる。

まとめ3(考察1)

- 和洋の卒業生は、卒業後もずっと働き続ける傾向や性役割分業観への否定的な傾向が見受けられたことから、女子大学としての使命を果たしていると考えられるのではないか。
- 学部における教職課程・管理栄養士の養成の重要性、女性のキャリア形成の重要性が示唆された。今後も教職(保育士養成)や管理栄養士などの資格取得の支援に力を注ぐ必要がある。

まとめ4(考察2)

- 卒業生への支援策として、リカレント教育の充実、仕事と子育ての両立に関するセミナーなど、生涯にわたっての女性の生き方に関する支援が求められている。
- 卒業生の多くは生活満足度が高いことが示されたが、そうではない回答も見られることから、満足度が低い原因や対策(学部時代・卒業後)について考えていくことが重要である。